

第2学年A組 保健体育科学習指導案

令和2年11月17日(火) 第4校時 体育館 指導者 古谷野 譲

1 単元名 マット運動(器械運動)

2 単元の目標

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

【運動の技能】

(2) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

【運動への関心・意欲・態度】

(3) 課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【運動についての思考・判断】

(4) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。

【運動についての知識・理解】

### 3 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
単元の評価規準	器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を認めようとする事、分担当した役割を果たそうとする事などや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	器械運動を豊かに実践するために、学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	器械運動の特性に応じた技を身に付けている。	器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。
学習活動に即した評価規準	①器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②よい演技を認めようとしている。 ③分担当した役割を果たそうとしている。 ④仲間の学習を援助しようとしている。	①学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ②学習した技から、「はじめ一なかーおわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見付けている。 ③仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 ④提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。	①全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 ②開始姿勢や終末姿勢、手の着き方や組み合わせの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。	①器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ③器械運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

#### 4 指導と評価の計画(本時11/17)

時	次	主な学習活動	評価規準				評価方法
			関	思	技	知	
1	1	オリエンテーション、安全面の確認、前転系	①				ワークシート 観察
2	1	後転系	②				
	2	巧技系	③				
3	1	前転系の発展		①		①	
	2	後転系の発展		③			
	③	巧技系の発展(本時)		④			
4	1	前転系の進展			①		
	2	後転系の進展			①	②	
	3	巧技系の進展			②		
5	1	技の組み合わせとつなぎ	④		③		
	2	発表		②		③	

#### 5 指導上の立場

##### ○単元観

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械体操の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

また、個人によって「できる、できない」がはっきりでやすい分野である。しかし、できないことで学習意欲のわきにくい生徒にとっても、その技に似た運動を繰り返し経験することによって、段階的に技を習得することができる運動である。そして、今できる技も練習を重ねる中で動きがよりよくなっていく喜びを感じたり、新しい技に挑戦し、動きができるまで何度も練習したりすることで、できたときの楽しさと喜びを感じることのできる運動である。さらに、技をひとつひとつ習得し、それらを組み合わせ、発表する過程の中で自分の良さに気づき、友達の良さを認め合い、励まし合う喜びを味わうことのできる運動でもある。

したがって、器械運動は、個々に合ったさまざまな課題を見だし、課題達成に向け、協力して取り組むことのできる教材といえる。

##### ○生徒観

全体的に落ち着いた雰囲気の子が多い。教員や地域の大人に進んであいさつができ、コミュニケーションをとる生徒が多い。また、体育会や文化祭など学校行事には、3年生を中心に全校生徒が一丸となって取り組むことができる。一方で、全校の生徒数が少ないため人間関係が固定化してしまうことがある。また、新しいことに挑戦しようとする気持ちが低い生徒が少なくない。

## ○指導観

本校では、1、2年生で器械運動を扱っている。しかし、昨年度末の新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から休校措置となり、1年生の3学期に行う予定だった器械運動が実施できなかった。したがって2年生は、初めて器械運動を扱うこととなる。そのため、基本的な技を段階的に行う必要がある。

マット運動は、できる、できないがはっきりしている運動である。マット運動を通して、できなかったことができるようになる楽しさや喜びを感じられる授業を展開したい。主に回転系の技を中心に取り組み、得意な生徒の活躍の場の設定と、苦手な生徒が達成感を味わえるような活動の設定をしていきたい。初めから教師がポイントを示すのではなく、生徒同士で成功のためのポイントを見つけ出し、工夫して練習に取り組むようにし、不得意な生徒が成功できるような環境を整えたい。そのために、得意不得意に配慮したグループ作り、得意な生徒の示範、ICT等の使用を取り入れた授業を展開したいと考えている。グループ学習では、生徒同士の対話を通し思考力を高めるような工夫をして指導していきたい。

評価にあたっては、本年度は新学習指導要領の移行期間になるため、運動についての思考・判断の評価で新学習指導要領に記載されている「提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。」を評価基準に含んだ。

## ○研究主題との関連

本校では、本年度、「道徳教育の充実と自己肯定感の向上を図る～主体的・対話的で深い学びと豊かな人間関係を目指して～」を校内研究の研究主題に設定し、特に主体的・対話的で深い学びの実現のために岡山型学習指導のスタンダードにある「1単位時間の授業5(ファイブ)」はもとより、単元を見通した学習計画の作成や評価、指導の工夫を行うことに取り組んでいる。そこで、本単元でも自分で考えて、表現する時間をしっかり確保し、深い学びの実現につなげていきたい。

6 本時案(第6時)

(1) 本時の目標

提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えることができるようにする。【思・判】

(2) 展開

主なねらい・学習活動	教師の指導・支援	評価方法及び評価規準
<p>1 準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操</li> <li>・ストレッチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節や筋肉をしっかり伸ばさせる。</li> <li>・ ストレッチをすることでケガの防止や技の出来栄が良くなることを理解させて取り組ませる。</li> </ul>	
<p>2 めあてを確認する。</p>	<p>めあて</p> <p>グループの仲間の技を見て、ポイントになるワードを使ってアドバイスができる。</p>	
<p>3 技のポイントを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技の動画とワークシートを利用して滑らかに回るためのポイントを確認させる。</li> <li>・ 新たに気づいたポイントがあればワード化させる。</li> </ul> <p>側方倒立回転:「車輪」「レール」「トントントン」など</p> <p>ロンダート:「パッチン」「Tの字」「トーン タンタン」など</p>	
<p>4 練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技のポイントのワードを意識しながら練習させる。</li> </ul>	
<p>5 試技をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5人組グループに分かれ安全に十分配慮させながら活動させる。</li> <li>・ 技のポイントのワードを意識しながら試技させる。</li> </ul>	<p>提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。</p> <p>【思・判】ワークシート</p>
<p>6 動画で確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで動画を確認しやすくするためにスクリーンに映す。</li> <li>・ スクリーンに生徒が撮影した動画を見せながら、ワード化の動きを全員で確認させ、前回の動画と比較させる。</li> <li>・ 動画チェックでは、ポイントのワードの動きを中心に確認させる。</li> <li>・ ポイントのワードに沿ったアドバイスをさせる。</li> </ul>	

7 練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>技のポイントをワード化して意識させることで、技のスムーズな動きや技術が向上することを確認させる。</li> </ul>	
8 まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">まとめ</p> <p>ワード化をすることで、ポイントを分かりやすく伝えることができ、技術の向上につながる。</p> </div>	
9 振り返りシートを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りシートに記入させる。</li> </ul>	

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する児童の姿の例  
 ・技のポイントになるワードを使ってアドバイスができる【思・判】